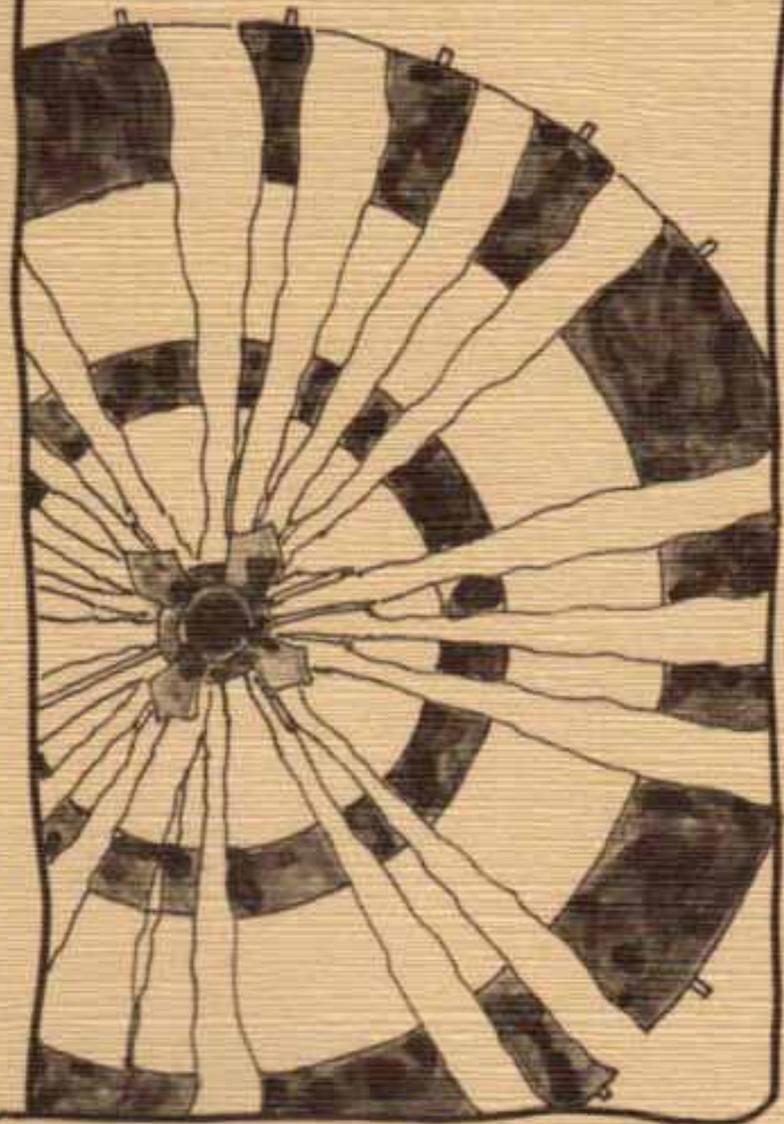


やぶれ傘



一二九号
二〇二二年十二月

文旦の横にはんたん飴の箱 根橋宏次
 花八つ手鴉が屋根に四羽ある きくちきみえ
 実万両かたへに陶の狸ゐて 瀬島酒望
 高橋を上つて下る小六月 丑久保 勲
 竹垣の竹新しき石路の花 廣瀬雅男
 かいつぶり潜ると思ひをればすぐ 大島英昭
 秋深しピーマンに肉ぐいと詰め 青谷小枝
 焼藪を土産にバーの戸を開く 小山よる
 朝冷えの鉄の手すりを撫でてゆく 藤井美晴
 多目的広場にぎはひ冬紅葉 渡邊孝彦
 大根干す日向に莫座を敷きひろげ 白石正躬
 参道に風吹いてゐる七五三 天野美登里
 推敲の一字に迷ひゐる良夜 有賀昌子
 星月夜夜間飛行のあかり見ゆ 安藤久美子
 新米の幟はためく道の駅 秋山信行

抄 集 句 傘 ぶ れ や 大 崎 紀 夫 選

太葱をこんがり焼いて塩ふつて 倉澤節子
 野の墓に野の花供へる秋彼岸 黒澤次郎
 地下足袋の跡新しき冬紅葉 中島和子
 露天風呂のわきを登山者山もみぢ 野口希代志
 腕のびしままの起重機今日の月 萩原溪人
 近きより遠きが美しき冬紅葉 本郷美代子
 日向ほこみんなの歳を足してみる 武藤節子
 掃き寄せて落葉の山の二つ三つ 山本久枝
 軒下に渋柿吊るし終へてお茶 湯本正友
 樽椅子に丸い座布団冬近し 石塚清文
 下北の道折れてまた折れて秋 泉 一九
 渋柿を渋柿のまま友にやり 伊藤 薫
 秋の夜最後の曲のペンライト 江口恵子
 どんぐりの踏めばよろめく程落ちて 奥田温子
 草紅葉真中に道を細く開け 神山市実

鳥 瓜

大崎紀夫

窓からは屋根と電線うろこ雲
コスモスの向うで山羊が鳴いてゐる
すつと日がかげりて烏瓜ひとつ
アルプスに初雪豚が鳴いてゐる
薄日差しすぐまた曇る草の花

日向では白山茶花が散つてゐる
銀杏散るあたりでベビーカー止まる
雨止んでゐて二の酉の夜となる
稲架解かれ竹と丸太になつてゐる
ガード下の飲み屋の椅子の小六月
鹿撃ちが川岸で鹿待つてゐる
前をゆく人に榎櫃は拾はれて

文旦

根橋宏次

どの丈に紫苑を切らうかと思ふ
折れてまたつづく坂道赤のまま
左手にかりん右手にラ・フランス
舟の滄泡立草へ放らるる
生みたての卵によごれ柿落葉
搔き出して軍手に刺さりたる落葉
干蒲団飛行機雲の消えかかり
文旦の横にぼんたん飴の箱
小六月ビールケースの椅子畑に
あんぱんで済ます昼めし都鳥

花八つ手

きくちきみえ

秋晴れの米屋の前の雀二羽
とりあへず栗より食べる栗御飯
亀捨てるあたり背高泡立草
十一月の雨仏壇に灯を入れる
そばがきを一人で一人分作る
竿受けに止りつばなし鬼やんま
美容院の鏡の中の十二月
葉表の日差しつやつやして落葉
熱爛を電子レンジの前で待つ
花八つ手鴉が屋根に四羽ゐる

実千両

瀬島洒望

秋夕焼戸越銀座の駅に着く
いつもなら見過ごす神社曼殊沙華
低空でグライダー飛ぶ猫じやらし
山を下り道は藁塚並ぶ田へ
ちよこなんと墓石の上にキリギリス
実万両かたへに陶の狸ゐて
鶴首に紫式部活けてみる
括られし桑の畑の空をへり
亀泳ぐ池木の葉散る木の葉散る
行きつけの店でランチの牡蠣フライ

小六月

丑久保勲

小鳥来てまた小鳥来てもうお昼
羽田へと下りるジェット機 雲
梨噛めばさくと音するティータム
白木 檜 ビラ 満杯の掲示板
ゴミ出しは山茶花の咲く家の角
放牧の牛を間近に山紅葉
芋虫が玄関先にころがつて
庭に立てば草はぼうぼうひよの声
眼つぶればすぐに居眠りカフェの秋
高橋を上つて下る小六月

石路の花

廣瀬雅男

枕辺にコスモス咲かせ涅槃像
間をおいて二発目を打つ威し銃
大うねりしてより落つる稲雀
入口に菊の鉢置く蕎麦屋かな
風の来てべつたら市の灯を揺らす
街川に潮の満ち引き柳散る
初時雨時刻通りに電車来る
竹垣の竹新しき石路の花
泥付きの大根載せて猫車
ごみ出しにゆくに傘さす時雨かな

かいつぶり

大島英昭

秋寒し餃子にほふ交叉点
畳屋にざくろの木あり実がふたつ
めなもみを一枚撮つて上がりとす
赤のまま最寄り駅まで二キロほど
穴惑ひ小枝投げればまた進み
反り橋の真ん中あたりうそ寒し
近づいてまた撮つてゐる櫛もみぢ
啄木鳥の音とはじめは気づかずに
新藁を田に焼く人の動く影
かいつぶり潜ると思ひをればすぐ

ななかまど

青谷小枝

十三夜握りてほぐす壺の塩
秋深しピーマンに肉ぐいと詰め
芋嵐飯蒸しかへし魚焼いて
小鳥来る棚につかはぬティーセット
秋草を挿してあたりは種だらけ
飛び越して溝の先にも草もみぢ
たまに来る電車せいたかあわだちそう
水引の荒々伸びて鳥居脇
池へ行く飛び石木の実おちてゐる
ななかまど海へまつすぐ下る道

焼 藪

小山よる

行く秋やケースの中で犬静か
秋の昼販売機から出る神籤
雑貨屋はアジアの匂ひ冬近し
日向ぼこしてゐる人のもとへ鳩
スケートのリンク三周して帰る
冬の陽の当たる方へと角曲がる
猫背にて歳時記を繰る風邪心地
父の履く足袋のこはぜを留めてやり
大股で足跡残す冬の浜
焼藪を土産にバーの戸を開く石

刈田

藤井美晴

にほふともなく転がつてゐる榎植
ヴェランダが白く明るい十三夜
野外能待つ宵闇の雨もよひ
めまとひのやうによぎれり草の絮
裏木戸の脇に真つ赤な唐芥子
親指のさきつぽほどの子芋食ふ
刈田向うをバスの灯がゆつくりと
柘榴の実割れて柘榴の帰り花
鉄棒冷ゆ枝肉の如ぶら下がり
朝冷えの鉄の手すりを撫でてゆく

冬紅葉

漣邊孝広

曼珠沙華作業場に立つドラム缶
防火水槽脇に鶏頭あかあかと
芋の秋ゴム手ゴム長干されゐて
休み田に案山子十基が屯して
石壁の蛙の上になごきて
立冬の月は明るし駅出口
木の葉散る改修中のログハウス
秋楡の落葉踏みゆくマイル道
多目的広場にぎはひ冬紅葉
花八つ手道の向かひに製麺屋

大根干す

白石正躬

秋の山空の端まで見渡せて
小豆摘む湿り気のある朝の莢
朝飯に芋の煮汁を少しかけ
芋の葉がしをれ始めてをりにけり
山の径野菊ひと叢伏してをり
大根干す日向に莫塵を敷きひろげ
小春日の真つ白な雲川の上
葱好きの爺さんが来る抜いてやる
煙の流れ気にしながらの焚火かな
土竜塚霜置く土手の中ほどに

七五三

天野美登里

山遠きままに暮れゐる案山子かな
紅葉かつ散り硫黄のほふゆで卵
廃屋の戸には門 鮭 風
波に陽の差し込み来たる暮の秋
軒に風物干し竿に吊るし柿
民宿の灯り 鴨 上戸の実
湯煙はまつすぐ空へななかまど
羊羹を厚く勤労感謝の日
参道に風吹いてゐる七五三
梢明りウイスキーボンボンひとつ

良夜

有賀昌子

いわし雲溶^ら岩^は原^ら近く素十句碑
色褪せし絵馬に吹く風そぞろ寒
十月の美術展見てレモンテイー
虫のこゑ今も竈のある農家
足元の溶岩に温もり青みかん
もしかしてなにもかも嘘けむり茸
雁渡る使いに行つた子を待ちて
フランスパン担げば銃か夕紅葉
秋扇約束事を思ひ出す
推敲の一字に迷ひある良夜

小春日

安藤久美子

乗り越しを硬貨で払ふ秋の昼
おろし金新しくして諸蕨芋
星月夜夜間飛行のあかり見ゆ
白壁とブロック塀と蔦紅葉
小春日の鴉ヒマラヤ杉の中
棕櫚箒の先が触れゆく藪柑子
光無き銀器を磨く冬の昼
返り花四阿までの道の辺に
目の覚めてエンドロールを見る炬燵
室咲きの彩とりどりの花の店

◇1月・2月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
1月	4日(木)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	6日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山 信行
	10日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	10日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	28日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	28日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
2月	3日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山 信行
	6日(月)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	7日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	19日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	WEP俳句教室	丑久保 勲
	25日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	25日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

2月19日(日)の吟行。

集合 10時、皇居・大手門入口=パレスホテル前。

吟行地 皇居・東御苑の二の丸庭園の梅林など。

句会場 森下文化センター・第1会議室。

地下鉄・半蔵門線で大手町駅→清澄白河駅へ移動。

◎連絡先 秋山 信行 ☎048-874-0555 藤井美晴 ☎0422-55-2733
 大島英昭 ☎048-592-5041 WEP編集室 ☎03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎048-443-7522 丑久保 勲 ☎048-853-3856

日 老 身 白 秋 新 秋 藁 向 測
 の 犬 を を 桃 す 米 深 帽 き 量
 暮 一 の か に だ 米 深 し に 揃 の
 れ 歩 の が 入 だ の の の の の 棒
 が 一 の が 入 だ の の の の の 影
 庭 歩 犬 し 刃 越 し に 売 ら れ る 桜
 に 犬 に 刃 越 し に 売 ら れ る 桜
 来 一 餌 先 の や は ら か く
 て 歩 を の や は ら か く
 ゐ や や は ら か く
 る 女 や は ら か く
 の 郎 秋 高 し く
 贅 花 し く

新米

秋山信行